

畳裏返し椅子に変身



畳の裏から2列に立ち上がる折りたたみ式の椅子。正座が苦手な寺の参拝者向けに、鈴鹿市のメーカーが開発した。四日市市羽津甲の四日市ドーム

四日市で産業展

寺社を建築設計する「寺企画1級建築士事務所」(千葉県船橋市)から昨年暮れに頼まれた鈴鹿市の省力機器メーカー「エース設備」と、椅子の専門メーカー「三惠工業」が開発した。

この床下チェアは畳の両長辺に3脚ずつ折りたたみ椅子をセット。普段は畳の裏に収納し、スイッチでモーターを動かすと、1枚の畳が二つに分かれて椅子が立ち上がる仕組み。エース設備の国吉修司社長(59)が、三惠工業の担当者と相談して開発した。

依頼した同事務所の天野正樹社長(80)は「寺の本堂に参拝する人のうち、若い

鈴鹿の2社 折りたたみ式

人や高齢で座るのがつらくなった人など3割ほどは、椅子を希望する。折りたたみ式にすれば必要な時だけ出し、片づける手間もかからない」と話す。

人や高齢で座るのがつらくなった人など3割ほどは、椅子を希望する。折りたたみ式にすれば必要な時だけ出し、片づける手間もかからない」と話す。

災害の電源確保に シート型太陽電池 三菱化学

県内の231企業・団体が新技術や新製品などを披露する「リーディング産業展みえ」の会場は8ゾーンからなる。「クリーンエネルギー」「ものづくり・情報通信」「医療・健康・福祉」のほか、東日本大震災と台風12号の被災地の特産品を販売して復興を支援するゾーンが設けられた。

シート1枚でノートパソコンを動かせるという。「うちも(これを)入れないと。東日本大震災や台風12号では電源と情報伝達



説明を受ける鈴木知事

手段の確保がいちばん重要な課題となった」と話していた。

この日は、四日市商工会議所が6月に経済交流協定を結んだ中国・天津市工業連合会の左隣副主席ら15人も会場を視察した。

産業展は今年で9回目。例年約7千人が訪れる。3日まで。3日は県立相可高校「まごの店」の弁当も販売される。近鉄とJRの四日市駅から無料シャトルバスが運行される。

(嶋田圭一郎)

インターネットで試作してくれそうな会社を探し、エース設備を見つけたという。国吉社長は「椅子の色や形を変えれば、お寺だけでなく、和室で椅子を使うところならどこでも利用してもらえらる」と、利用の広がりも期待する。天野社長は「椅子自動設定装置」と名付け、特許を申請中だ。(佐野登)